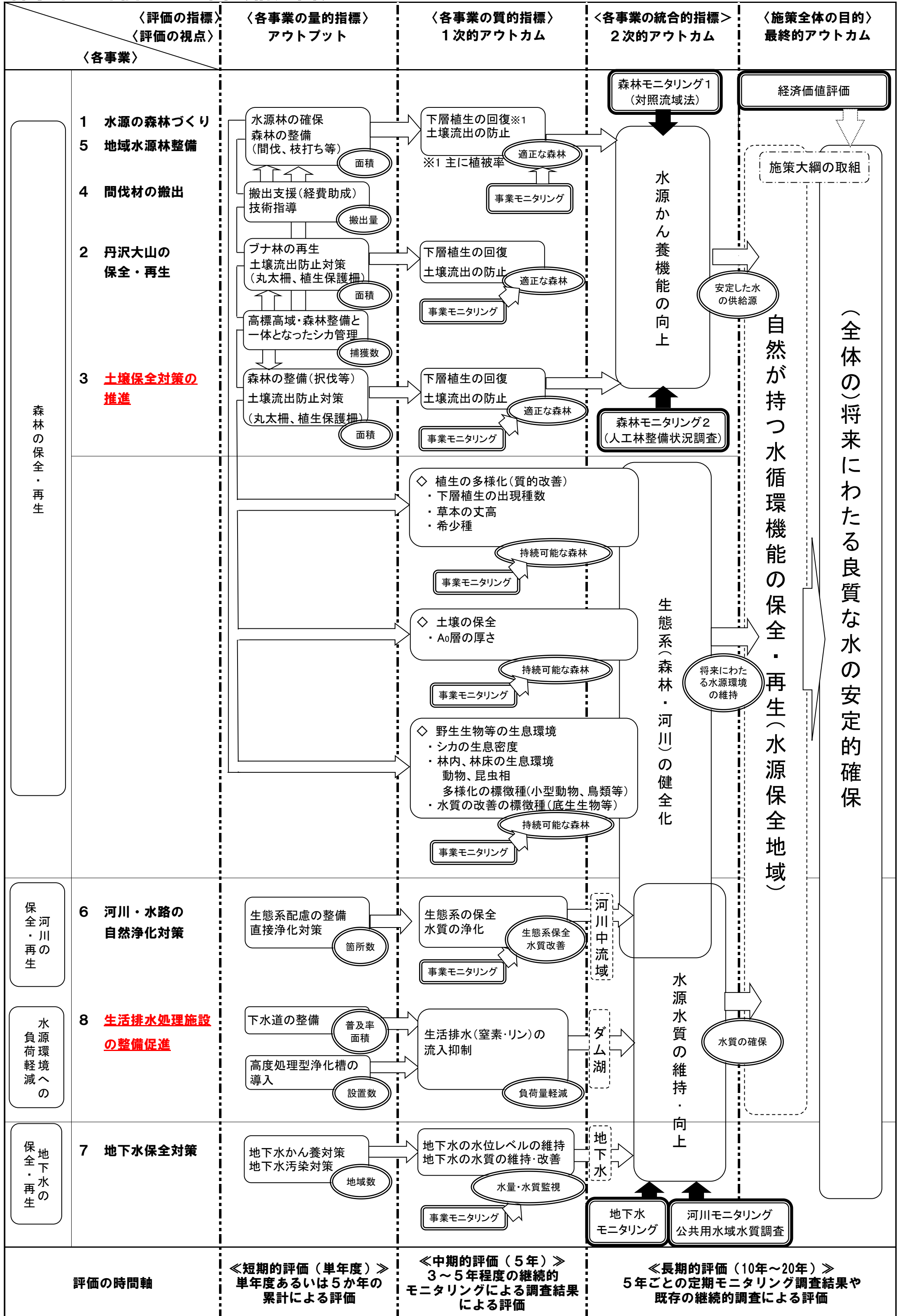


	導入前の状況	計画事業	<各事業の量的指標> 1次的アウトカム	<各事業の統合的指標> 2次的アウトカム	現時点での確認できるアウトカム ※二重囲みは現時点でのアウトカムの達成度(状況)を示す指標検討案	施策の目的
森林	◆ 手入れ不足 ◆ シカの増加 ◆ プナの立枯れ ↓ 森林の荒廃 ↓ 公益的機能低下の懸念	① 水源の森林づくり事業の推進 ② 丹沢大山の保全・再生対策 ③ 土壤保全対策の推進 ④ 間伐材の搬出促進 ⑤ 地域水源林整備の支援	○ 下層植生の回復 ○ 土壤流出の減少 ○ シカの生息密度の低下 ↑ 事業モニタリング	◎ 土壤保全 → ◎ 水源かん養機能の維持・向上 [流量の平準化 水質の浄化] ↑ ◎ 生態系の健全化 【モニタリング】生態系調査 【モニタリング】対照流域法調査	☆ 水源かん養をはじめとする公益的機能の高い森林づくり 『 水源かん養など公益的機能が高い森林 』 植被率が高い(40%以上)の森林の割合 [調査地点] 【第1期調査】 134地点 41% → 【第2期調査】 134地点 53%	将来にわたり県民が必要とする良質な水の安定的確保 ↓ 経済評価 ↓ 【水質】 取水堰における環境基準達成度 (BOD、N、P) ↓ 【水量】 取水制限の日数 (施策開始以降、取水制限はなし)
ダム湖・河川／負荷軽減	◆ 従来型河川整備による影響 ◆ 生活排水対策の遅れ ↓ アオコの発生	⑥ 河川・水路における自然浄化対策の推進 ⑧ 生活排水処理施設の整備促進	○ 生態系の保全 ○ 水質維持・改善 ↑ 事業モニタリング ○ 負荷量の軽減	◎ 水源水質の維持向上 【モニタリング】河川モニタリング 公共用水域水質調査 生態系(森林・河川)の健全化	自然が持つ水循環機能の保全・再生／水源環境の負荷軽減 《ダム湖・河川》 ☆ 県民の水がためにふさわしいダム湖の水質 『 アオコが発生しにくい湖内環境 』 相模湖・津久井湖におけるアオコの発生状況 【S54~H18】(28年間) 相模湖12回(年) 津久井湖5回(年) → 【H19~H28】(10年間) 相模湖1回(年) 津久井湖2回(年) ☆ 自然浄化機能の高い河川・ダム湖 『 自然浄化機能の高い持続的な水利用 』 代表的な整備箇所におけるBOD、平均スコア値等 【平均スコア値】 第1期調査 5.5 → 第2期調査 5.89 《負荷軽減》 ☆ 水質・水量両面における負荷の軽減 『 水質汚濁負荷と水利用負荷の削減 』 【施策大綱 P40】 ・ 相模湖・津久井湖の集水域における生活排水処理率 ・ 相模湖に流入する生活排水負荷量 (BOD) ① 相模湖・津久井湖の集水域における生活排水処理率 44.4% → 66.0% ② 相模湖に流入する生活排水負荷量 (BOD) 100 → 65.1	
地下水	◆ 水位低下 ◆ 水質汚染の懸念	⑦ 地下水保全対策の推進	○ 水位維持 ○ 水質改善 ↑ 事業モニタリング	◎ 水位維持 ◎ 水質改善 ↑ 【モニタリング】地下水測定調査 水源水質の維持・向上	☆ 持続可能な地下水利用 ☆ 地下水汚染のない水道水源地域 『 水位レベルの維持 』 『 環境基準以下の水質 』 ・ 地下水の水位レベル ・ 地下水汚染状況 ① 地下水の水レベル → 施策開始以降は地下水位を維持 ② 地下水汚染がない水道水源地域 【H14年度~H17年度】 地下水汚染状況 5地域/8地域 → 【H22年度~H25年度】 地下水汚染状況 6地域/7地域	

事業効果の検証

施策の成果(将来像・目標)の検証

各事業の評価の流れ図（構造図）



○ 最終的な総合評価を見据えた『評価に関する検討事項』

- ・ 二次的アウトカムと最終的アウトカムの評価方法が具体化されていない
- ・ 具体化にあたっては数値目標があった方が望ましいと考えられるが設定できるか
- ・ 大綱に書かれている目標（将来像）は次のとおり
 - [森林の保全・再生]
 - 水源かん養をはじめとする公益的機能の高い森林づくり
 - [河川の保全・再生]
 - 県民の水がめにふさわしいダム湖の水質
 - 自然浄化機能の高い河川・ダム湖
 - 貯水機能の高いダム湖
 - [地下水の保全・再生]
 - 持続可能な地下水利用
 - 地下水汚染のない水道水源地域
 - [水源環境への負荷軽減]
 - 水質・水量葉面における負荷の軽減
- ・ 指標（効果を測る「ものさし」）を決めることができるか
- ・ 指標を決められないもの（数値化できないもの）もあるがどのように扱うか
- ・ 指標を活用することで、中間評価では踏み込んだ評価ができるか
- ・ 中間評価の成果として目標が具体化できるか